

課題と対策

指定管理者となり4年目の運営になりました。支援員の大切にしていることを拾ってくださってありがとうございましたのでご紹介します。

○先生と遊んだ話をよく聞くので、コミュニケーションがとれているのだなーと感じています。

○子どもはとても楽しそうに通っています。学童の先生は優しく、友達とゆっくり遊べる時間も嬉しいようです。おやつ表を読んで、次のおやつをとても楽しみにしています。

○先生方がとても親切で、会うと学童での様子を話してくれたり、連絡ノートに小さな事でもトラブルがあったら書いて教えてくれるので、安心して預けられます。夏休みもイベントをたくさん準備して下さり感謝しています。

課題については、下記のようにさらに改善を図っていきます。

課 題	対 策
<p>友だちとの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の自由にしすぎる、見守りが行きたくないという気持ちを稀に引き起こしている。 子どもが困って本当に嫌な気持ちになってからスタッフに伝え、そこからの対応。目視で気づいてくれるスタッフがいるのか不審な時がある。 	<p>友だちとの関係</p> <p>児童の発達を理解し安心安全な環境を設定すると共に子ども達の自主的な活動が広がっていくのを見守っていきたくと考えます。</p> <p>登所降所時には特に児童の言動や表情の変化に気づき、子どもの話を聞いたり、見守りながら育成をしていきます。必要な事は職員間で共有していきたくと考えています。</p>
<p>おやつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 既製品のものが多すぎる気がする。低学年だと家で食べさせてないものもあると思う。もう少し食育や栄養を意識したものを出してほしい。 1年生にはちょっと多い。 甘いおかしや添加物の多い駄菓子が多く。 他の地域のようにおかず系やおにぎり、野菜等子どもの成長に適した内容にしていきたい。 	<p>おやつ</p> <p>目標として、保育園のように手作りのおやつにしたいと考えています。調理出来る環境が整っていないため、手作りおやつがイベントのようになっているのが現状です。そんな中、少しでも手作り感が味わえ、子どもがワクワクした気持ちでおやつを食べれるように、7月果物たっぷりゼリー、8月ホットドック・かき氷、12月コロッケサンド・フルーチェを提供しました。</p> <p>おやつの量については、どの程度の量なら夕飯に響かないかは、当日の体調によって変わることもあると思います。夕飯に影響していると感じる場合は支援員に相談して、量を調整してもらってください。</p> <p>学童のおやつは、「心の活力の補給」と「エネルギー源の補給」で、この2点のバランスの上に成り立っており、おやつは欠かせない存在です。なるべく添加物などの少ない物の提供を心がけております。子どもたちは長い授業を受けて学童へ来てホッと一息つけるお楽しみとしても、アイスやチョコレートなどの甘いものも提供しております。</p>

課 題	対 策
<p>支援員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 言葉遣いや態度から、信頼をおけない先生もいます。 • 子ども同士のトラブルがありました。連絡帳、電話はなく、子どもから学童に行きたくないと言われ相談を受け、学童に問い合わせをし、問題が解決した経緯があるので不審感があります。事件やいじめに発展するようなことが学童内でおきたら気が気でないし、親と同じまではいかなくとも、アンテナをもう少し巡らせて頂けたらなと思います。子どもの心に残る傷がよくつく場所であっては困ります。仕事を減らすべきか、休職するべきか悩むところです。 • 他の児童から嫌なことを言われて悲しい思いをしても先生には言えないと言っていた。 • 言葉では伝えているようですが、子どもからはよく泣く子、面倒を起こす子に時間を割いているそう、忙しそうと聞きます 	<p>支援員の関わり</p> <p>学童では、子どもの気持ちを大切に日々の育成を行っています。</p> <p>信頼をおけない職員がいると思わせていること、よく泣く子どもや面倒を起こす子どもに時間を割いて他の子どもへ行き届かないことがあったことについて、大変申し訳なく学童としては残念に思います。今一度、職員一人ひとりが学童クラブ支援員としての自覚を持ち日々の育成に向き合いたいと考えています。</p> <p>学童内でおきたトラブルについても、大変なご心配をおかけいたしました。学童で起きたことは小さな事と思わず、少しでも早くご相談いただき、対応していきたいと思えます。子ども同士のことで、まだまだ子どもだけでは解決出来ず、もやもやしたまま過ごすことはお子さんにとっても大変なことです。私たち指導員がしっかり子どもたちの話を聞き、どうしたらみんなが楽しい気持ちで過ごすことが出来るか考えていきたいと思えます。</p> <p>困ったことがあったら支援員に遠慮無く相談が出来るように信頼関係を日頃から築いていくことと学童クラブとしてどんなことが考えられるか職員会議で話し合い、10月からはいつでも職員に伝えられる方法として事務室入り口に「せんせい、あのね・・・」BOXを設置しました。</p>
<p>苦情窓口の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 窓口の説明はないが、傾聴の姿勢は感じられる。 	<p>苦情窓口の説明</p> <p>苦情窓口の説明は、新入児童面接の際、学童のしおり（P.12～13）を基に入所事に説明をさせていただいています。直接、学童へ連絡や相談をしていただくことが一番ですが、内容によっては出来ない場合もあると思えます。そのときは、当法人へ相談（電話または来所いただいて）、または日本社会事業大学の先生方が窓口となってメールでの相談を受けています。</p>

また、こうだったらいいなというお声もいただきました。

○3年生でお世話になり、今年度、4年生はいないとのことですが、6年生まで希望する子どもが参加出来るかとありがたい。とくに夏休み、学校のプールも廃止されて学校に行く機会もないので、学童での受け入れをお願いしたいです。

○特に夏休みは、学童でのイベントが本当にありがたかったです。今後、子どもたち発信やメインでのイベントの企画が増えていくと、学童で過ごす時間がより充実したものになるかと感じている・・・今後の育成にいかして参ります。

保護者の方々からのご意見には励まされ、改善することに気付きました。主任をはじめ支援員全員の育成に対する質の向上とへつなげるものとして、より一層、精進して参ります。